

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0153680046		
法人名	社会福祉法人 緑星の里		
事業所名	グループホーム ハーモニー		
所在地	苫小牧市植苗5 1番地の1 5 6		
自己評価作成日	平成24年 2月 6日	評価結果市町村受理日	平成24年4月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigochoo-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0153680046&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成 24 年 2 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境のもと、法人開設時からの「家庭的な雰囲気」を大切にしながら法人理念である「支え合って共に生きる」のケア実践に努めています。ハーモニーでは認知症ケアの基本に個々のペースや思いやりに寄り添い、安心した気持ちでお過ごし頂けるように努めております。日々の生活においては、思い思いのスタイルで、穏やかな暮らしに向けた関わりを心がけ、季節に応じた行事や法人敷地内の散歩、売店での買い物、ホーム一角を利用した畑作りや収穫した食材や旬の食材を活かした食事を提供するなど、日常から体験的な刺激を楽しみ喜びに変えられるように配慮しております。運営主体である緑星の里では、知的障害者施設や高齢者関連施設を設置経営しており、ホーム主体の行事の他、法人施設で行う行事への参加を促し、様々な楽しみの場を提供しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは自然環境に恵まれた地域にあり、近くには小中学校、ファミリーセンターがあり、運営法人の緑星の里の下、知的障害者施設、高齢者関連施設、東胆振ケアセンター、宿泊型自立訓練センター他、多数の施設の中にあります。地域の老人クラブ、町内会とも地域の交流もあり、小学校の生徒が、よさこいソーランを披露にホームを訪れたりしています。又、春から秋は運動公園の中を散歩、法人施設の売店まで買い物に出かけたり、ラジオ体操、法人施設で月2回習字クラブに参加するなど、利用者、家族、管理者、職員、地域と、シンボルマークでもある5人で手をつなぎ、5つの輪になって「支え合って共に生きる」理念のもと、利用者は穏やかに暮らしています。法人の連携協力体制は取っていますが、他の事業所とも交流を図っていききたいと取り組んでいます。職員も内部研修、法人研修、外部研修と、職員一人ひとりがレベルアップに取り組み、利用者が安心して笑顔で暮らせるホーム作りに取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「支え合って共に生きる」を利用者サービス実践に活かせるように、利用者と職員そしてその家族が支え合って認知症ケアにつなげるように努力している。	「緑星の輪」のシンボルマークの意味でもある5つの輪になって「支え合って共に生きる」理念の下、管理者、職員は多くの方々と手をたずさえ共に歩む、理念を共有し実践に繋げています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	花火大会に子どもも参加したり、書道のクラブ活動、文化祭交流等機会あるごとに参加している。また地域防災体制のもと訓練参加している。	町内会の方は利用者が散歩などの外出の際に、さりげなく見守りをして頂いています。地域の老人クラブの方々が法人講習会に参加して頂いたり、小学生は、よさこいソーランを披露に訪れたり、ホームからは花火大会に参加して頂く等、利用者との交流を支援しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポート事業に参画し、地域の老人会、役員会、法人職員を対象にサポート研修会を開催し、認知症の理解に努めた。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の参加は少ないが、ご家族の参加地域住民の参加は、高くなっており、グループホームの事業実態の理解が高まっている。今後は地域住民としての定着を事業所としてPRする。	運営推進会議は、市担当者や家族、地域の方が参加し、定期的に開催されています。運営状況、介護サービスの情報公表、ホームの防災計画などを報告し、意見を運営に活かすよう取り組んでいます。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市内のグループホーム連絡会の活動で、定期的に市町村担当者と意見交換する場を設けている。	グループホーム連絡会に参加して、市担当者とも定期的に連絡を取りあっています。また、東胆振地区の集団指導の会議「グループホームの在り方」に参加するなど、協力関係が築かれています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践している。法人としても理事長講話研修にも、毎回触れられている。今後は会議のたびごとに、マニュアルを持参するなど、ケア基準とセットでマニュアルを活かす。	身体拘束廃止委員会設置をしています。手引き書も作り、全職員が法人代表者の講話研修を受けています。職員が、ケア会議で正しく理解をし、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	今後、更に職員一人ひとりの理解度を高めていきたい考えを示しています。習得した知識等がより、適切なケアに結びつくよう、その後のミーティングやケア会議等で、内容が活かされることを期待します。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人理事長が年度当初に、内部研修において、直接職員全員に周知している。また、新任職員研修においても周知している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の新人研修で学ぶ機会はあるが、認知症ケアの実践で、生きた題材で学ぶ機会を増やして行きたい。成年後見を利用する利用者もあり、その実態は理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	居宅介護支援事業所からの情報をもと在宅生活、福祉施設等々からのご利用に際し、契約、解約等の説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて、運営上の問題、実態等ご家族からも、忌憚りのご意見も伺えるようになった。	運営推進会議に家族にも参加して頂き、参加出来ない家族へは、ホームに来たときに意見、要望を伺ったり、会議結果を報告しています。1階ユニットは「ハーモニー通信」、2階ユニットは「ぽっかぽか便り」で、日々の状況を伝えています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課の面接、会議の場においても職員から説得力のある質問が出てきている。事業予算、給食費等経営的な側面を示し、全員参加経営を目指す。	常に、代表者は管理者と職員全員参加の運営を目指しています。職員は管理者とは話しやすい関係であり、意見はケア会議などでも率直に出しています。修繕設備、用具など、ホームの備品などについても話をしたりして、運営に意見を反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員の求人難、介護基幹整備と介護報酬体制のみ重要視され、そこに働く職員の生活環境を現場事業所に押し付けている状況下では、自ずから限界があるが、労働環境改善には最善を尽くしたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人によるスキルアップ研修や新規・中途採用職員への研修、隣接する協力施設と合同の内部研修の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会で交流する機会はあるが、参加できる職員の数に限りがあり、充分に出来ていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご家族・ご本人と面談の機会を持ち、本人の意向を受け止める努力をしている。入所後もご家族の来所時をとおしてご本人への要望、近況報告等の情報交換は常にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族・本人と面談の機会を持ち、入所に至るまでの意向を聞く場を設けている。入居後も、面接に関わる職員以外においても、面会時に声を掛け、お話を聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状態の連絡、対応の相談、実施など、サービス内容が変更する都度の家族との連携を図っている。(医療機関との連携、法人内メリットを活かしサービス提供に努めている)		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑仕事や家事全般、季節行事のことなど、学ぶことや教えられることも多く、本人との会話の中から知識や知恵を引き出し、遊びや作業・生活に活かせるように取り組んでいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	寄り添いを基本にしていることから、利用者の考え、したいことを先読みしながら、利用者の確認を踏まえ、ご家族の方でしかできない支援はお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出の写真やご家族の写真を置くことなどで、孤独感からの開放、過去の人生を回想しながら、過去現在未来をお話しながら日々の支援に努力している。	利用者の希望で、ドライブの途中で以前住んでいた家を見にいたり、かかりつけ医への通院時などでは、友人と会って話ができるように支援をしています。利用者が大切にしてきた場所や、友人との関係が途切れないように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係性の把握が出来ており、テーブルの配置や外出時の組み合わせ、日常の関わりなど、無理強いのない範囲で職員が配慮し、利用者同士の関わり合いが円滑になるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族が、ホームにお寄り頂き、お話をされる機会もあり、退居後においても医療機関の相談と連携に関わっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族の情報下、日頃の思いをくみとる努力をしている。表面的に判断せず、本心が何かを職員が言葉・行動を示して確認している。	利用者に寄り添うことを基本に、利用者、家族から思いや希望を聞いています。利用者から話が聞き取れない時は、利用者の行動で思いを汲み取り、利用者本位のケアサービスに努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や生活の形態など、今までのご本人の暮らししてきた様子が分かるように把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子を細かく記録し、全職員が確認し、申し送りや職員間で伝達することにより、把握出来ていると感じる。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議において職員間で検討評価しその上で、ご家族への説明・相談・同意を得る。面会時の会話などから、ご家族の要望を把握し、計画に反映できるように努めている。	ケアプラン見直しの際は、家族と事前に十分な話し合いを行い、医療機関の指示及びモニタリング等、詳細に記録された資料を参考にし、ケア会議で検討しています。短期は3ヵ月で見直しをして、現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録の記載や特記事項など、細かく記録し、情報の共有に努めている。記録を日々の関わりやプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内施設のリハスタッフ、看護師から、指導アドバイスを頂いたおり、柔軟に対応できるよう心掛けている。法人リットを活かしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域には運動公園、駅、ウトナイ湖、法人事業所等々があり、散歩、ミニドライブ、行事等に参加したり外出の機会を創る努力をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療面に関することは、ご本人ご家族に相談しながら支援の質を高めている。	希望のかかりつけ医があれば、家族と一緒に職員も同行して、通院を支援しています。また、受診内容は受診ノートに記録し、職員間で利用者の情報を共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時や特変時、日常の医療面に関することを、法人施設の看護師へ相談し、アドバイスを受け対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には情報提供（連絡先・身体・認知面・行動・生活状況）をおこない今後の医療方針を決める時は、ご家族の相談にのり利用者が最も良い環境になるようにつなげている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階での話し合いは出来ていない。今後は介護計画更新時にご家族に終末期のあり方について話を進めると共に職員に対しても高齢者医療の現状も説明していく。	家族へは、利用者の状態変化に応じて、ホームで「出来る事」、「出来ない事」を口頭で伝え、関係者全員で今後の方針を話し合っています。法人との連携の下、同法人の他施設への移行支援等を、円滑に行えるようサポートしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルや内部研修の機会が設けられているが、実践力を身につけるために、繰り返しの訓練が必要と感じる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ハーモニーを出火場所と想定した火災を実施している。法人単位での消防計画が作成されており、各施設の連絡や応援体制、自治体への連絡体制が体系化されている。	ホーム独自の火災訓練を実施し、法人単位での火災訓練は消防署協力の下、行っています。夜間訓練も地域を含め2回行っています。法人全体では地域参加の地震訓練を行うなど、法人で水、食料などの備蓄もあり、法人各施設への応援、協力体制も出来ています。	法人全体の連携は図られていますので、今後は地域住民の方々が運営会議を通じて、協力者の役割についても話し合い、検討される事を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉、表情や態度・行動を注意しながら常に心掛け、実践に努めている。	プライバシーの確保や人権尊重についての学びが深められるよう、接遇研修に取り組んでいます。今後も会議等で、話し合う機会を大切に行きたいとの考えを示しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	寄り添いの中から、希望や思いの確認、を職員が言葉や行動で示しながらご本人の意思を尊重した関わりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切に、希望に添うように努めているが、その日の状況により、スタッフ側のペースで対応をしていることもあり充分とはいえない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	努めている。外出や行事等は服装、化粧と職員からの「おしゃれ」への支援を楽しみにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の状態や能力に応じ、準備や片付け、食材の下ごしらえ等の対応を行なっている。又畑で採れた野菜や季節の作物を、食卓を飾ることもある。	月1回の外食ほか、ドライブを兼ねた外食も楽しんでいます。日々の食事の際には、利用者の方が味付けをしたり、盛り付けをするなど「利用者の出来る力」を活かしています。また、菜園で採れた野菜で、収穫祭をしたり、誕生日には利用者の好物が食卓を飾っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量の記録を付け、必要量の摂取が促されるように努めている。食事においても、嗜好や体調に応じて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の能力に応じ、声掛けや見守り、介助により実施している。歯科診療も法人内で実施しており、直接指導もあり刺激になっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で、排泄パターンを把握し、トイレへの声掛けや誘導を実施している。また、トイレへの促しが、スムーズに行かない方への声掛けなども工夫している。	トイレ誘導は2～3名ほどですが、排泄チェック表や行動などから、さりげなく声かけをしています。ホームに来てから、リハビリパンツから布パンツ、パットへ移行となった利用者もいるなど、排泄の自立支援に職員全員で取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取への促しや、ヨーグルト、乳製品など摂取内容の工夫。毎朝ラジオ体操や散歩で身体を動かす機会をつくっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その人のペースに合わせて誘い掛けの工夫、タイミングに合わせて入浴していただいている。望まない時には無理強いしない。	入浴は午後の時間帯で、週2回のペースですが、毎日でも入浴が出来ます。入浴回数の少ない利用者のケースでは、月2回の清拭、足浴などを行っています。その都度、利用者一人ひとりに合った支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活スタイルを把握し、安心して、入眠していただいていると感じている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報提供書を個人ファイルに残し、確認が出来るようにしている。家族から新しい薬の投薬状況を知らせてほしい希望が刺激になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花札、菜園、買い物、ドライブ、外食、歌など、一人一人の楽しみにごとを把握し、生活していただけるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族や地域の方との協力は出来ていないが、ご本人の希望には添えるよう努力している。売店での買い物、散歩などに出掛けている。葬儀への出席も、ご家族と相談しながら、参列への支援を行なった。	洋服などの買い物に希望するお店に出かけたり、利用者、家族の意向に応じた個別の外出支援をしています。ユニット毎に外出行事を楽しんでおり、遠くは洞爺湖、大滝、支笏湖、恵庭の道の駅などに行っています。また、近くでは、きんたろう池や水源地、北大演習林での花見など、気軽に出かけています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる利用者には所持してもらい、買い物へ出掛けた際に自由に使えるように支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	対応できる利用者には、自由に電話を使用していたり、希望があれば都度、電話や手紙の支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光のある場所に畳や座椅子を置いたり、玄関、ホールなどに、季節を感じて頂ける飾りつけを取り入れ、心地よく生活出来るよう工夫している。夏はテラスに椅子を置き、外の空気を感じられるように工夫している。	玄関ホールにもソファが置かれ、吊るし籠、利用者手作りの作品が飾られています。居間の大きな窓は明るく、畳スペースに座椅子が置かれ、ゆったり過ごせるようになっています。季節感のある飾り付けがされ、ベランダからは季節に応じて花などが見られます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関やテラス前にソファを配置するなどの工夫をし、食卓テーブルを含め、共用スペースをそれぞれが思い思いに活用されていると感じる。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具などを持ち込み、ご家族とご本人の話し合ってタンスやテーブルを配置し、それぞれの好み、馴染みに合わせた生活空間を作ってもらっている。	居室は、洗面所、ベッドが備え付けられて、湿温計や加湿器も設置されています。リネン交換も週1回行われています。家具は使い慣れた物を持ち込み、写真や掲示物など、利用者のお気に入りの物が飾り付けられているなど、居心地よく過ごせるような工夫がされています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、手洗い場、自室が分かるように、ネームなど目印を付けるなどの工夫を行っている。手すりを設置を増やし体力に応じた安心を提供している。			